

# じゅしゅう

## 元旦会

新しい年を迎え、一月一日十四時より元旦会のおつとめさせていただきました。阿弥陀さまや親鸞さま、そして皆さまも新年のご挨拶をさせていただき、ゆっくりとお聴聞の時間を持つことができました。

この度のご講師は京都より苗村隆之先生をお迎えしました。ご議題は「煩惱にまなごさへられて、撰取の光明みざれども、大悲ものうきことなくて、つねにわが身をてらすなり」。

先生ご自身の経験から、結婚をご門徒さんに報告をしたときに「今が一番良い時ですなあ」と言われた。後は悪くなるだけかと憤っ

ていたけれど、確かに良い時もあるが、悪い時もある。けれど、そんな自分を、変わっていく自分を、そのまま引き受けて、撰めてくださる阿弥陀さま。今この瞬間だけでなく、私が気づくよりも前から、私を照らし続けておられますよ、とお取り次ぎをいただきました。



第22号  
(通算362号)

発行元  
浄土真宗本願寺派  
吉富山 浄覚寺  
大阪市平野区  
長吉長原3-1-10  
06-6790-8350

今月十四日に雅楽の上映会を企画しました。住職も伝承に携わっているこの雅楽について、少しお話しさせてもらいます。

聖徳太子によって仏教が日本に取り入れられますが、それとともに伝えられた外来の音楽である雅楽も用いられることになりました。

雅楽は平安時代まで日本の風土に合うよう変化がありますが、それ以後はほぼ同じ形で現在まで伝わってきています。

京都の宮廷におかれた大内寮所、奈良興福寺や春日大社を中心に南都寮所、そして大阪四天王寺で伝える



天王寺寮所が伝統的な雅楽伝承組織です。

住職はこの天王寺寮所雅亮会という団体で雅楽を習い、そしてまた後身への指導にも携わっております。

雅楽には楽器だけで演奏する時と、舞を伴う舞楽というものがあります。その舞楽を中心に、雅亮会では毎年演奏会を催しておりますが、今年度はコロナ禍の影響により動画配信となりました。少しでも興味を持っていただいた方には、ぜひともご来山いただき、日本全ての伝統芸能の底流にある雅楽をお楽しみいただければと思います。

### 今日のクイズ

- ・阿弥陀さまをはじめ、仏像にある特徴として、足の裏は真っ平ら(扁平足)になっています。そこに表された意味はズバリなんでしょうか。
- ・正解は次号にて。

「頑張り」も

よいが

如来さまの

「そのまま救う」が

有難い

《直枉会カレンダーより》



# 御文章に聞く(第19回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

紙) 今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていききたいと思えます。次の場面に移りますが、思い切つて

いまの世章(四帖第十通) されば、弥陀をばなにとようにならば、また後生をばなにとねがうべきぞというに、なにのわずらいもなく、ただ一心に弥陀をたのみ・後生たすけたまえとふかくたのみもうさん人をば、かならず御たすけあらんことば・さらさらつゆほども疑あるべからざるものなり、このうえには、はやしかと御たすけあるべきことありがたさよとおもいて、仏恩報謝のために、念仏申すべきばかりなり、あなかしこ あなかしこ

八十三歳 御判

最後までいこうと思えます。少し長くなりますが、大意をお伝えします。「そこで、阿弥陀仏を信じるとは、また、後生を願うとは、どういうことか明らかにしましょう。それは、あれこれと思ひ悩むことなく、一筋に阿弥陀仏が、すべての人を分け隔てなく浄土に生まれさせるとの、本願を完成されたことを聞かせていただいて「おおせのままにお浄土へ生まれさせていただけます」と、聞きうけることです。ですから往生に疑いはありません。このように聞かせていただいたからには、ましがいのないおたすけですから、そのありがたさを思つて、仏さまのご恩を思つてお念仏するばかりです。」解説は次号以降にしていきますが、お念仏の教えは、この私が、今ここでもう既に願われていたことに気づかせていただくということなのです。

# 仏教語辞典



## 易行

「南無阿弥陀仏」と念仏するようにな、誰でもできる簡単な修行のこと。普通、修行というとき、念仏するだけ、易行はそれより、念仏するだけで阿弥陀如来に救われるというものである。難しい修行では悟ることの出来ない人々に用意されたものであり、誰もが平等という仏教の真髄ともいえる。

『気になる仏教語辞典』 著・麻田弘潤 誠文堂新光社 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

# 編集後記

今月も「じゅごう」をお届け致します。大阪に二回目の緊急事態宣言が发出されております。不安な毎日を通していることですが、不要不急は避けながら、できることをしっかりとこめていきたいと思えます。 お寺では蠟燭(ロウソク)をたくさん使います。最後まで使い切ることほ少なく、短くなつた蠟燭が残蠟として残ります。今まで残蠟は捨てておりましたが、もったいなく思い、集めて溶かし、再度固めることで新しい蠟燭を作ろうと思ひ立ちました。 コロナ禍ですが、色んなこと挑戦しております。 蠟燭リサイクルの様子は当山ホームページに掲載しております。ぜひご覧ください。(釋法道)

# 行事案内

日時・令和三年二月十四日(日) 十四時より  
行事・第二回 仏教文化講演会  
場所・長原 浄覚寺  
内容・雅楽上映会(天王寺楽所 雅亮会 雅楽公演会)  
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

3月  
三月二十日(祝) 十四時より  
春季彼岸会 法話 田淵幸三先生

